

第 67 回日米学生会議実行委員長（松居純平）からメッセージ

日米学生会議参加者の激励会、ヘリテージ。今年度も本会議を前にして期待と好奇心に満ちあふれる学生たちを、元三井物産副社長の島田様、青山学院大学大学院教授の羽場様、そして東京財団上席研究員の渡部様からの基調講演と、交流会を持って激励して頂いた。

前半の講演はアジア情勢を踏まえた内容となっており、第一線でご活躍される中で蓄積された最先端の常識を踏まえた国際社会における日本のポジションや将来性を再認識する絶好の機会であった。戦後日本の経済成長の背景、アジアにおける日本の立ち位置の変化、米中関係と日本への影響などは純粋に知識として新鮮なだけに止まらず、日米関係だけでなく中国にも目を向けた方が良いというメッセージを受け取り、参加者もその重要性を噛み締めているのではないだろうか。各国から見た日本という視点で物事を深掘りする重要性を改めて認識し、本日受けたインパクトが学生の今後の成長にも影響しているのではないかと願っている。

またレセプションは、多様な方々との交流の機会として有意義な時間となった。こうした社交の場で普段は接することのない社会人の方々と意見交換をすることが学生の今後の成長を促していると感じており、今後もこのような機会を活かし、我々自身もその関係性をその先へ繋げていきたい。総じてヘリテージは、防衛大学校研修から始まった JASC 行事にあふれた 3 日間に相応しい締めくくりとなった。改めて関係者の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

6月7日 YFJ へリテージ 感想文

第61回国際学生会議 実行委員長

立教大学4年 山永航太

初めに、本へリテージに第61回国際学生会議実行委員をご招待頂きましたこと、厚く御礼を申し上げます。誠に有難うございます。私たち国際学生会議は、日米学生会議と出自を共にし、1954年に第一回が行われて以来、毎年開催しております。世界中の学生を募集対象とする国際学生会議では、ある国との二国間関係のみでなく、幅広い視点を持ち、会議に望む必要があります。その点、本へリテージにおける、柳井会長のご挨拶を初め、島田様、羽場様、渡部様、お三方のご講演は、「グローバルな視点で物事を捉える」考え方を示してくれたように思います。また、本へリテージの一つの目的として、日米学生会議日本側代表及び国際学生会議実行委員の学生達への激励が含まれておりました。国際関係の最前線を走る方々のお話は、実行委員一同大変刺激を受けたことは間違いなく、本会議成功へ向けより一層邁進していきたく存じます。有難うございました。